

イギリスと EU の離脱交渉始まる

今回のイギリス国会下院の総選挙の結果は、保守党は最大議席を確保したとは言え、メイ首相が思い描いていた圧倒的な過半数議席の獲得は出来ず大誤算でした。もともと 2020 年に予定していた総選挙を 2 年も前倒しで実施したが、Snap Election（思い付きの選挙）と揶揄され、メイ首相の EU 離脱交渉に強固な国民支持を取り付けて臨みたいと言う思いは、砕けてしまいました。

総選挙選挙期間中に発生した 2 度のテロも、メイ首相にとっては向かい風になってしまいました。一般に、国家の非常事態は、国民に保守的な行動を促すため、与党に有利に働くことが多いされていますが、しかし 3 月の国会議事堂周辺のウェストミンスター橋テロ以来、5 月 22 日のマンチェスターテロ、5 月 30 日のロンドン橋テロと、メイ首相が内務相時代から財政健全化のために警察官の数を 15,000 人も減らしたことが、テロ監視が手薄になったのではないかと、国民や野党労働党などから批判され、弁明に追われ選挙運動どころではなくなっていたのも事実でした。

その上、労働党より遅れて開示したマニフェストの苦情が多く、特に高齢者の介護手当の多寡を持ち家の市場価格も取り込んで決めると言う新提案は、高齢者の猛反発で、ついにマニフェストから削除するという失態を演じてしまいました。また選挙の目玉である、公開党首討論会にも欠席したことが、メイ首相は野党労働党からの追及に反論できないので逃げた、との話にすり代わり、まさに踏んだり蹴つたりの状況でした。

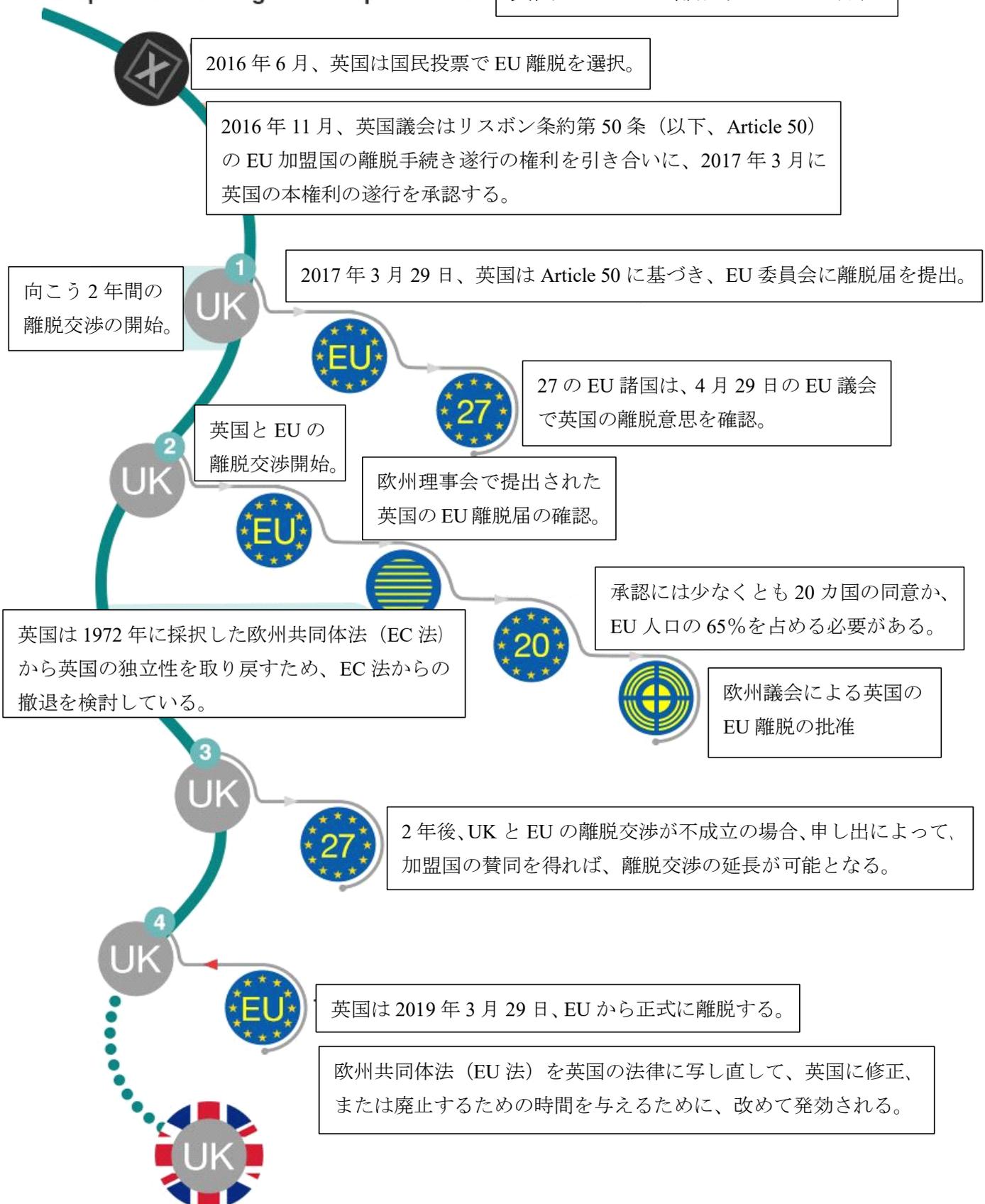
このような状況の中でメイ首相は、果たして多くの困難が予想される EU 離脱交渉を国を代表してリードしていけるのかと危惧する声が、身内の保守党内部から出ており既にレームダックだとの報道も出ています。

既に 2017 年 3 月 29 日にメイ首相は EU 離脱届を EU 本部に提出したため、離脱交渉の成り行きいかににかかわらず、2019 年 3 月 29 日を持って、英国は EU 離脱をしなければなりません。その時までにはメイ首相が主張しているハード・ブレグジット（移民の制限と、EU 市場からの離脱）と言うメイ首相の思い通りの交渉結果を手にすることが出来るかどうかであります。野党労働党は、EU 離脱には賛成ではあるが、その方法はソフト・ブレグジット（移民はそこそこの制限、EU 市場へのアクセスは維持）を標榜しており、どちらも「言うは易し行は難し」で、相当な困難が離脱交渉が予想されています。

このような中で、6 月 19 日から正式に英国と EU の間で離脱交渉がスタートしました。BBC のホームページに次ページの図の様に、「英国が EU から離脱するまでの行程」と題する記事が掲載されていました。

Steps to UK leaving the European Union

英国が EU から離脱するまでの行程



さて、この EU 離脱交渉を実際に担当する英国側の代表は68歳のデービッド・デービス EU 離脱担当相で、38歳で下院議員に当選、30年間の議員生活を誇るベテラン議員で、1994年から3年間、EU 担当閣外大臣を務め、最も EU 通と言われ、筋金入りの離脱派でもあります。

これに対して、EU 側はフランス人の63歳のミシェル・バルニエ氏です。27歳の若さで国会議員になり、フランスの外務大臣や EU 委員を務めた EU 通のベテランの政治家です。英国と EU の数々の政策での意見の対立を繰り返しており、英国のデービス氏から見ると、相手にとって不足のない手強い交渉相手になりそうです。



**2017年6月19日、EU本部での離脱交渉担当の両代表
英国代表のデービス氏（左）とEU代表のバルニエ氏**

英国と EU の離脱交渉は、24,000項目もの法律案件の交渉をせねばならない。しかも交渉は、月に一週間つまり、2019年3月までは84週しかなく、一日に40項目は交渉せねばこなせない量で、果たして両方にとって納得の行く交渉結果を得ることができるか、甚だ疑問でむしろ期限までに交渉を完了させるのは無理ではないかと思われまます。

2017年3月に離脱を表明し、その2か月後に突然の総選挙の公示、6月に投票と、既に3か月もの貴重な時間を無駄にしたことになり、本当にメイ首相は大丈夫なのかと保守党内からの声もだんだん大きくなって来ています。このままでは、近いうちに首相交代劇があるのではと、思わざるを得ません。しかし、そうなると、さらに貴重な交渉時間が少なくなり、双方の納得の行く交渉結果を得ることは、ますます困難になりそうです。(了)